

1 新たな都市デザインあり方検討の全体像

これまでの都市デザイン

理念

個性と魅力ある
人間的な都市空間の創造

7つの目標

1. 歩いて楽しい
2. 地形や風土を大切に
3. 歴史や文化を大事にする
4. 緑を豊かにする
5. 水辺を大切にする
6. 人が集う広場を増やす
7. 人の心を動かす美しさ

実践



50周年まとめ (令和4年度)

これまでの
「振り返り」

現状の市民の評価、50年の
変化を総まとめする



これからを考える
「未来会議」

市民と新たな潮流をつかみ
これからの視点を探る

新たな都市デザイン (令和5年度)

理念

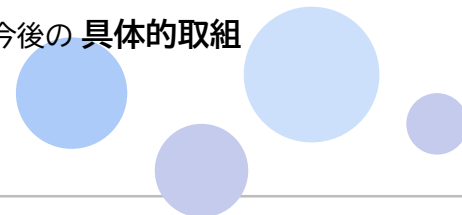
個性と魅力ある
人間的な都市空間の創造

戦略

7つの目標
× 新たな取組み姿勢

都市デザインのツールの整理

今後の 具体的な取組



2 令和4年度の取組み 【振り返り】



明日をひらく都市
OPEN X PIONEER

● これまでの都市デザイン50年間の取組みの評価

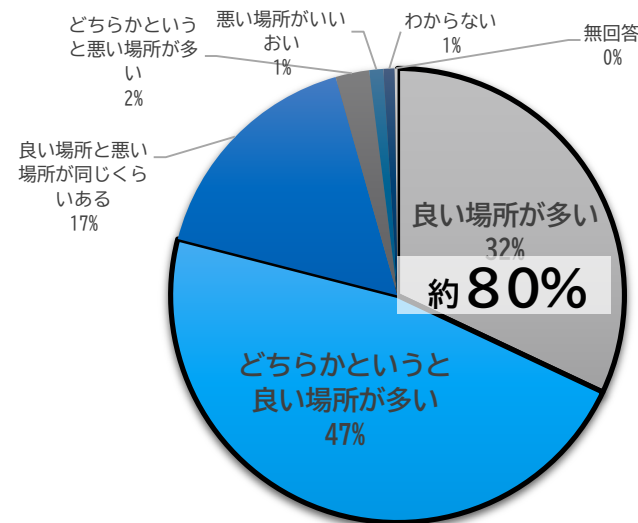
現在の景観に対する評価 【令和4年度 ヨコハマeアンケート】

「現在の横浜の景観について総じてどう感じますか」という問いに、「良い場所が多い」「どちらかというが良い場所が多い」あわせて約8割が回答

- 横浜は古さと新しさが融合しているところが最大の魅力だと思う。
- 横浜という街は新しいものを拒否したりせずに取り入れ、横浜らしくアレンジして、横浜スタイルとして定着していくことを楽しんでいるイメージがある。

計画的・継続的取組みに対する評価 【都市デザイン横浜展 来場者アンケート】

- 現在の横浜の都市景観が先人の努力で作られてきた特別なものだとよくわかった。
- 横浜は色々な方の努力で成り立っていることに感動した。
- ぜひ歴史をいかしたまちづくりを継承して行ってほしい。



【令和4年度ヨコハマeアンケート】

現在の横浜市
の景観について
どう感じますか？

2 令和4年度の取組み 【振り返り】



明日をひらく都市

OPEN X PIONEER

● これからの都市デザインへ向けた期待

郊外部も含めた都市デザインの展開への期待 【都市デザイン横浜展 来場者アンケート 自由意見】

- みなとみらいの一極集中ではなく、もっと郊外にも拡大してほしい
- 今、開発している場所以外でも、その地域の特色を生かした街づくりをしてほしい

都市デザインに参加できる環境づくりへの期待 【都市デザイン横浜展 自由意見・有識者等コメント】

- 市民、企業と取り組んできたこともたくさんあると思うので、そうした点での更なる成果を期待したい
- 都市デザインについてあまり興味がなかったが、知れて面白かった。一般の人も気軽に参加できる形があるといいと思う
- 都市のデザインの意味は、絵を描き、空間を提案し、実際のものとおわせて空間に落とし込むまでの一連の技術であり、それを意思決定のプロセスに組み込むことが重要
- 地域で活動する人たちの層の厚さ、前向きなパッション、明るい若者や子供の活躍を進め、コミットできるような仕組みづくりが必要

2 令和4年度の取組み 【未来会議】概要



明日をひらく都市
OPEN X PIONEER

ワーキング (5つのグループテーマ)



レクチャー

- ① 都市デザイン横浜の継承と革新
～未来の普遍的価値を見つける



- ② 都心部の可能性
～都心部の新たな可能性を考える



- ③ 海をひらく
～海の価値を高める

- ④ 水と農と緑のある暮らし
～内陸部の新たな価値を探す

- ⑤ 横浜のコミュニティ再生
～現在のコミュニティの在り方考える



- ① 野原 卓氏 横浜国立大学准教授
都市デザインでまちを豊かにする

- 三輪 律江氏 横浜市立大学教授
『暮らす』から見る横浜の未来



- ② 滝澤 恭介氏 水辺総研取締役、ランドスケーププランナー
都市のレジリエンスを高める環境と社会のデザイン

- ③ 伊藤 大貴氏 ソーシャル・エックス代表取締役
社会課題と企業と公共

- ④ 羽藤 英二氏 東京大学教授 ×都市デザイン室長
都市はこれからどこへ行くのか？

- ⑤ 坂倉 杏介氏 東京都市大学准教授
これからのコミュニティデザインとウェルビーイング

2 令和4年度の取組み 【未来会議】まとめ



明日をひらく都市

OPEN X PIONEER

未来の暮らし実現に向けたキーワード

ワーキング



レクチャー

▼ 具体的キーワード

理念を継承しつつ新たなニーズに対応すること

- 人間が生きていくための環境を良くするデザインでウェルビーイングを目指す
- **ヒューマニティからパーソナリティ**への重要性が増す

固定観念にとらわれずチャレンジしていくこと

- まちを変えるプログラムの実現へ向けて**チャレンジ**を積み重ねる
- **一見関係ないように見えるもの**をうまく**重ね合わせる**ことで新しい考え方が生まれる
- 都市デザインは建築や都市のハードだけではなく、**福祉や教育など別領域との連携**も必要

ボトムアップでイノベーションを起こしていくこと

- **大きなビジョン**（行政主体）と**小さなアクション**（行政・市民・企業主体）を合わせて考える
- **準公共分野**を民間企業が担う発想を持つ

コミュニティの場を官民でつくること

- 団地や街角をコミュニティを育む場としていく
- 様々な人の**暮らしの圏域の重なり**になり得る**公共空間のつくり込み**が重要となる
- **多様な人々どうしの出会い**を創出し、新たな活動を創り出す
- 個々の暮らしに合わせたテーマ型の**柔軟なコミュニティ**が必要となる

身近な生活圏の価値を見直し、一人ひとりが暮らしを選択できること

- 「都心⇄郊外」という二元論的な価値観でなく**多様な選択を重視した多元的な価値観**を実現
- **ローカルアイデンティティ**を突き詰めて考えていく
- **身近な自然や水辺を再評価**して暮らしに取り入れる
- 既存の線引きによらず、生活圏や流域など対象とする**圏域を適切に設定**する

3 新たな都市デザイン【理念】



明日をひらく都市

OPEN X PIONEER

未来の暮らし実現に向けたキーフレーズ

理念を継承しつつ新たなニーズに対応すること

固定観念にとらわれずチャレンジしていくこと

ボトムアップでイノベーションを起こしていくこと

コミュニティの場を官民でつくること

身近な生活圏の価値を見直し、
一人ひとりが暮らしを選択できること

「都市デザインの理念」と「7つの目標」
継承しつつ時代にあわせて発展させる



新たな視点、姿勢で取り組む

3 新たな都市デザイン【理念と戦略の考え方】



明日をひらく都市
OPEN X PIONEER

時代に合わせて発展

理念

『個性と魅力ある人間的な都市空間の創造』

ヒューマニティからパーソナリティへ

時代に合わせて発展

擁護すべき価値から暮らしに活かす価値へ

7つの目標

1. 安全で快適な歩行者空間
2. 自然的特徴
3. 歴史的・文化的資産
4. オープンスペースや緑
5. 水辺空間
6. コミュニケーションの場
7. 形態的、視覚的 美しさ

5つの新たな取組姿勢

- ① 質の高く新しいもの・技術を既存の価値と組合わせて、横浜の個性をつくる
- ② 思いもよらないもの・ことを組合わせて新しい価値につなげる
- ③ 既存の制度に縛られず、新たな社会的要請に応えた望ましい都市空間の実現に向けて実験・挑戦する
- ④ 様々な主体の共創や協働が生まれやすい空間や仕組みをつくる
- ⑤ 多様な価値観に応える魅力的な選択肢を用意する

戦略

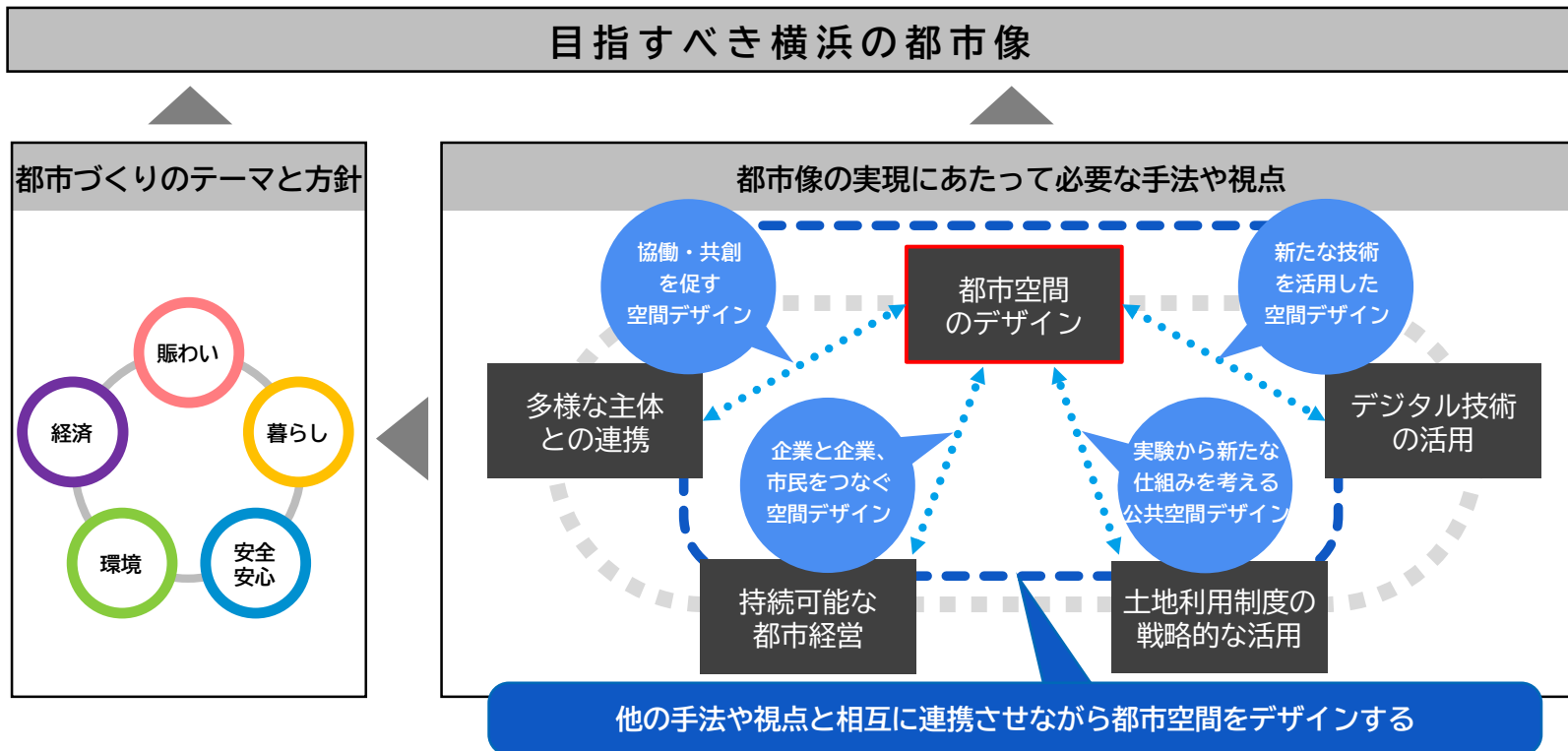


4 今後の取組みの展開【都市づくりにおける役割】



明日をひらく都市
OPEN X PIONEER

● 都市づくりの枠組み (都市計画マスタープラン全体構想 改定検討より)



4 今後の具体的取組の展開【都市空間のデザイン】



明日をひらく都市
OPEN X PIONEER

(出典) 横浜市記者発表資料

暮らし



協働・共創を促す
空間デザイン

地域住民や地域団体に活用し
コミュニティを育む広場をつくる
【十日市場センター地区22街区】

人の心を動かす美しい
都市空間のデザイン



賑わい



新たな技術を活用した
空間デザイン

デジタル技術など新たな技術をこれまでの横浜の夜景の価値と組合せ、新しい個性をつくる【2022年度 ヨルノヨ】

(出典) 都市美対策審議会景観審査部会資料

経済



企業と企業、市民とつなぐ
空間デザイン

企業間、来街者等の交流機能をビル低層部に配置。外部空間と一体となってオープンイノベーションを促進する
【みなとみらい21 中央地区52街区】

賑わい



実験から新たな仕組みを
考える公共空間デザイン

新たな公共空間の活用のしかた、過ごし方を実験し、展開に向けた仕組みを検討する【2016年度 関内外OPEN! (会場：関内さくら通り)】

4 今後の具体的取組の展開【都市デザイン】



明日をひらく都市
OPEN X PIONEER

俯瞰的な計画
都市マス（全体構想・区プラン）など



都市マスにおける
都市づくりのテーマ

多層性と魅力ある人間的な都市空間の創出

7つの目標

1. 安全で快適な歩行空間
2. 自然環境
3. 歴史性・文化的価値
4. オープンなスペースや緑
5. 多様な利用
6. 公共空間・オープンスペースの創出
7. 多層的・複層的なまち

5つの新たな取組姿勢

1. 駅前広場・駅前地区の活用・活用促進を推進し、都市空間の活性化を図る
2. 駅前地区の活用・活用促進を推進し、都市空間の活性化を図る
3. 駅前地区の活用・活用促進を推進し、都市空間の活性化を図る
4. 駅前地区の活用・活用促進を推進し、都市空間の活性化を図る
5. 駅前地区の活用・活用促進を推進し、都市空間の活性化を図る

都市デザインの理念・戦略



エリアコンセプト
ブックなど

都市デザインのツール活用

都市デザイン

計画実現のため
具体的なエリアで
都市空間づくりの方向性を
示して調整する

具体的に都市空間を
デザインする
アイレベルの
空間・風景づくり

官民の事業・人々の活動

都市空間デザインのイメージ



4 今後の具体的取組の展開



明日をひらく都市
OPEN X PIONEER

● 住宅地から“ライフスタイルの拠点”へ

- ・ 住むだけでなく郊外部の暮らし
多様な働き方、遊び方、学び方への対応
- ・ それぞれエリアの個性（自然環境、歴史、農業等）
を掘り起こしブランディング



和泉山親水公園
泉区 中野町



おおかアートプロジェクト
《8boom》吉水浩（中央緑地泉区）



33
本郷台駅前広場/本郷台駅前リベンジ



● 都心部“再”強化

- ・ 攻める景観づくり
⇒ 歴史的建造物の積極的な活用
新しい技術を取り入れた新たな夜間景観づくり
- ・ 横浜の顔、玄関口としてのおもてなし空間の創出



● 海をひらく

- ・ インナーハーバーをさらに美しく
- ・ 多様な暮らし方にとって居心地の良い
海辺を創出



5 スケジュール



明日をひらく都市
OPEN X PIONEER

